

報告事項才

鳥取市佐治町辰巳峠から見つかった国内最古のヒラタドロムシ科昆虫の化石について

鳥取市佐治町辰巳峠から見つかった国内最古のヒラタドロムシ科昆虫の化石について、別紙のとおり報告します。

平成21年8月18日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

鳥取市佐治町辰巳峠から見つかった国内最古のヒラタドロムシ科昆虫の化石について

辰巳峠（県指定天然記念物）から、ヒラタドロムシ科昆虫の化石（体長 5 mm）が発見された。ヒラタドロムシ科の化石としては、国内で 2 例目であり、国内で最も古い化石記録（約 650～550 万年前）である。学術的にも貴重な発見である。

この化石は、8 月 7 日（金）から鳥取県立博物館の自然常設展示室において展示している。

1. 発見の経緯、意義等

（1）経緯

- ・鳥取県立博物館収蔵の辰巳峠産の化石を、県立博物館とホシザキグリーン財団の林 成多（はやし まさかず）主任研究員が共同で調査したところ、ヒラタドロムシ科の幼虫（終齢幼虫のぬけ殻）化石が確認され、マルヒラタドロムシ属のヒメマルヒラタドロムシ種群とわかった。

（2）意義

- ・ヒメマルヒラタドロムシ種群が、少なくとも約 550 万年前（後期中新世）には日本にいた直接的な証拠になり、本昆虫の進化を考える上で貴重な標本である。
- ・辰巳峠（人形峠累層辰巳峠部層〔後期中新世〕）は「植物化石産出層」として県指定の天然記念物である（平成 14 年指定）。これまでに約 160 種の植物化石が確認され、トトリカエデやウエムラカエデなど新種の数約 40 種にのぼる。植物だけでなく良好な昆虫化石も産出し、今までにタツミトウゲオサムシやイナバムカシアブラゼミが新種として発見されており、今回のヒラタドロムシ科化石の発見は、化石産出地としての辰巳峠の価値を再認識するものである。

（3）研究成果の発表

- ・ホシザキグリーン財団主任研究員の林 成多と鳥取県立博物館副主幹の川上 靖により、日本鞘翅（しょうし）学会英文誌「Elytra」37 号に研究の成果が発表された。[林 成多・川上 靖（2009）：鳥取県辰巳峠から産出した新第三紀のマルヒラタドロムシ属化石（コウチュウ目：ヒラタドロムシ科）。Elytra 37 号, 99 - 103 ページ〔英文〕]

2. 化石とヒラタドロムシ科昆虫について

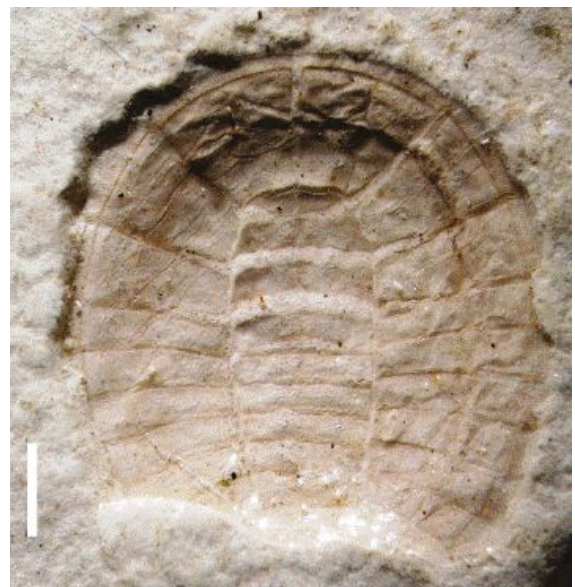
化石：【写真 1 参照】

現世種：ヒラタドロムシ科は日本に 10 属 23 種が知られ、幼虫は円形または楕円形で、おもに河川に生息。



河川の「水のごれ」を調べる指標昆虫としても知られ、児童・生徒にもなじみがある。成虫は、体長 4～5mm の甲虫【写真 2 参照】。

【写真 2】現世のヒメマルヒラタドロムシの成虫（ ）



【写真 1】ヒメマルヒラタドロムシ種群の幼虫の化石（白い線は、1 mm）